

# 高精度放射線治療を導入

7月から青森労災病院（八戸）

## がん患者の選択肢を広げる

八戸市の青森労災病院

は、がんに対する高精度な放射線治療「VMAT（回転型強度変調放射線治療）」を7月から導入する方針で準備を進めている。今年1月から実施している治療システムを高度化する。手術や抗がん剤などによる治療に加え、患者の選択肢を広げて、個々の病状や身体状況に一層適した治療に努め

る。

同病院副院長・放射線治療科部長の真里谷靖医師によると、1月に導入したのは、がんの病変部にピンポイントで放射線を照射する「STI（定位放射線治療）」や「SBRT（体幹部定位放射線治療）」、病変部周辺の正常な臓器などへの放射線の影響を低減する「IMRT（強度変調放射線治療）」

など。患者にメスを入れて臓器などを切除する手術より身体への負担が少ないこ

とで、高齢で手術が難しい患者などにも治療が行えるようになっているという。



患者体内の線量分布図を見ながら放射線治療計画を検討する真里谷医師＝26日、青森労災病院

7月にはIMRTの進化形であるVMATと、線量測定が可能な最新型の「治療用X線イメージング装置」を導入する。治療によって縮小していく腫瘍の状態と、体重の増減や体形など患者の身体変化にリアルタイ

ムに対応し放射線照射を必要な部分に絞っていく適応型放射線治療という先進技術の利用を目指す。高精度放射線治療は県内外の基幹病院でも行われているが、八戸圏域では同病院が先行例だという。

真里谷医師は「技術的進歩による放射線治療の抗腫瘍効果、薬物療法や免疫療法との併用効果などを知ってほしい。地域の患者が高度な放射線治療を受けられる環境をつくっていきたい」と話している。

（近藤弘樹）